

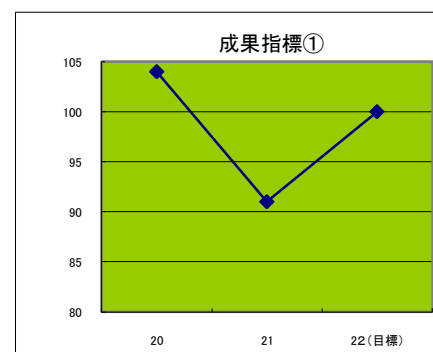
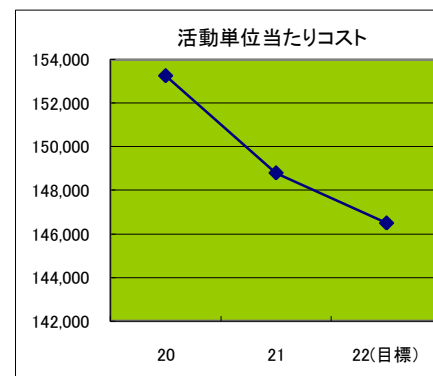
平成 22 年度 事務事業評価シート(平成 21 年度実施事業)

整理番号

市協01

事務事業名		はびきの市民大学事業		予算科目	会計	1	一般会計
					款	2	総務費
					項	1	総務管理費
					目	16	市民協働費
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち	事業	30	はびきの市民大学	
	施策(節)	3	生涯学習				
	施策の方向	(1)	生涯学習の機会と内容の充実	作成部署			
関連する計画等				市民人権部市民協働ふれあい課			
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先		072 - 958 - 1111 内線 1080	
	年齢や居住地・勤務地を問わず、生涯学習やそれを基にした「まちづくり」・「ひとづくり」に関心のある方						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	自己実現だけでなく行政と協働した「まちづくり」への積極的な参加を促すことを目的としている。						
	○講座の実施…独自の地域性を重視したカリキュラムによって、専門的で体系的な学習機会を提供する定期講座だけではなく、その時々々の社会の話題に対応した短期講座や公開講座を開講している。						
	○学習相談…専門の学習相談員による、生涯学習などに関する相談を受付けている。						
○学習情報室の設置…生涯学習に関する情報を収集、分類整理して学習情報を提供を行うとともに、ボランティアと学習者が交流する場として学習情報室を開放している。							
根拠法令等		教育基本法 社会教育法 ほか					
事業開始時期		☐ 昭和 13 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている				終了年度	平成 年度
事業開始時からの状況変化		平成21年度から事業の一部を民間へ委託し、従来の運営方法に、民間ならではのノウハウを活かした運営手法を取り入れた事業を展開している。					
市民や議会の要望		さらなる講座内容や規模の充実・学習成果の発揮できる環境整備・受講者に対して、行政との協働作業への期待					
実施手法		☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称() ☒ 民間委託 ☐ その他		委託内容		はびきの市民大学事業全般	

区 分		20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		11,071	31,086	30,729
人件費【2】 (千円)		22,950	1,500	1,500
職員数	正規職員	2.50 人	0.20 人	0.20 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	1.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	1.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		34,021	32,586	32,229
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)	4,367	4,865	5,540
	一般財源 (千円)	29,654	27,721	26,689
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 講義数(短期・公開講座含む)	回	222	219	220
② 学習相談件数	件	35	20	40
③ 学習情報室利用者数	人	975	904	1,000
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		153,248 円	148,795 円	146,495 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		284 円	274 円	271 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度
	①	受講希望者率	%	市民大学講座（定期講座・短期講座・公開講座）受講に関心を持ち、希望される人数の割合	目標	100	100	達成率(%)	100
		(式) 全申込者数÷講座の定員の総数×100			実績	104	91	91.0%	
	②	単位習得率	%	単位を修得し、羽曳野市民大学学士を目指す方の方の人数の割合	目標	30	30	達成率(%)	30
		(式) 全単位習得者数÷定期講座全受講者数×100			実績	25	24	80.9%	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	平成19年4月1日施行の「はびきの市民大学規則」により、生涯学習の環境づくりの一環として必要である。
		○				○		○	○		

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	受講を希望される方の人数は、依然として多いことから、市民ニーズにマッチしていると言える。また、これまでと同様に、地域の高等教育機関や民間団体などとの連携を継続しており、地域性の高い事業である。さらに、社会や国際情勢の動向にも考慮した講座内容であることから、市民の課題解決に積極的な支援を行っていると言え、妥当であると考えられる。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☐	☐	☒	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	総事業費は年々減少傾向にある。また、平成21年度より民間に委託し、民間の持っている集客ノウハウや従来の事務の見直しなどによって、コストは最小限に抑えつつも、他の自治体と比較して遜色ない事業展開ができている。しかし、21年度からの委託のため、今後さらに効率的に事業展開できる余地はある。
	受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☐	☒	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☐	☒	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☒	☐	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	市民大学をきっかけとして、NPOを立ち上げられる方や、地域でサークル活動を始められる方が出てきている。また、そういった活動をされている方に講座の講師をしていただくなどの取り組みもしている。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	事業開始当初から「市民スタッフ」と一緒に事業運営をしており、委託後も継続してその形をとっている。また、市民ニーズを知るためにアンケートを実施し、積極的に意見を求め、反映させている。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	目標は概ね達成できているが、まだ向上の余地がある。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
	成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当 部局 評価	総合評価
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了
	評価の理由
	平成21年度より事業の一部を民間へ委託した結果、事業内容は前年度までの水準を維持したまま、コストダウンに成功できたため。 今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 民間ならではのノウハウを活用して、さらなる事業内容の充実や事務の効率化を図り、既存の利用者だけでなく、新たな層の獲得を視野に入れた事業展開を目指す。

行 事 本 部 評 価	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	